經典文獻研讀活動計畫書

單位:國立嘉義大學人文藝術學院台灣文化研究中心

主持人:黄阿有

讀書會成員:嘉義大學史地系教師及碩士班、碩專班學生為主,另有中正大學歷史學系、致 遠管理學院教師加入。

書名:〈日本人〉の境界—沖繩・アイヌ・台湾・朝鮮 植民地支配から復歸運動まで(The Boundaries of the Japanese)

作者:小熊英二(おぐま・えいじ)

發行:東京都,新曜社

日期:2005年,初版第九刷

近來對日本帝國殖民主義的相關研究,日益蓬勃,尤其對有關日治時期的台灣研究,不 再僅從被壓迫者的角度著眼,而是更積極的從被殖民者主動積極應對的角度出發。尤其各大 學院校陸續設置與台灣史相關之學系,對殖民地台灣的政治、經濟、社會、文化、教育、產 業等各種議題,持續深入研究,所呈現的成果亦頗爲可觀。在日本方面,學界也逐漸擺脫過 去避諱探討殖民帝國宗主國與殖民地間曖昧關係的陰影,以更寬廣的視野角度,檢討往昔被 認爲禁忌的帝國和各殖民地間的主從關係,對於北海道愛奴族,沖繩的琉球王國,所謂「內 地殖民地」,都能以正面的態度檢討過去的特殊統合政策。對於朝鮮、台灣的殖民政策下差別 待遇政策,與日本帝國「同化」政策的矛盾,多方剖析、反覆推究。

小熊英二生於 1962 年,1987 年自東京大學農學部畢業,1998 年修畢東京大學教養學部總合文化研究科國際社會科學專攻大學院博士課程,現在擔任日本慶應義塾大学総合政策学部助教授,專長爲歷史社會學,對於日本國族主義(ナショナリズム)的形成特別有興趣。小熊英二在本書之前,曾著有《単一民族神話の起源一「日本人」の自画像の系譜》,2002年出版《〈民主〉と〈愛国〉一戦後日本のナショナリズムと公共性》皆是一系列相關的著作。本書在 1998 年出版,小熊提出所謂「日本人」究竟何所指的問題。在近代日本,琉球、愛奴、臺灣、朝鮮的人民,時或是日本人,時或是非日本人,作者詳細檢討相關政策說法之搖擺,以探討此一問題。這一本書是認真考慮國家、國民究竟是什麼的人所必讀。以下是對本書大致內容的簡介:

本書本文有23章,連序論、結論則共25章。探討戰前琉球(沖繩)、北海道、台灣、朝 鮮等統治議題,以及戰後沖繩歸屬,滯日韓人歸屬等議題。其中作者自我提出二大主要的質 問,第一是到底所謂的「日本人」界定範圍,如何去定義。第二爲規範「日本人」的界限, 須設定哪些必要因素。還有近代以來,日本國境範圍從沖繩、愛奴、台灣、朝鮮等地區擴大, 對上述地區的統治政策以兩大質問的解答,重新檢討所謂「日本人」以及「日本」概念之差 異性。

明治維新後,隨著國勢範圍的擴大,逐漸將語言文化迥異於日本內地的沖繩、愛奴納入日本的範疇,並視此兩地區爲區域文化,但在法律地位並沒有給予一般日本國民的水準。愛奴人適用舊土人保護法,施行特殊教育制度,沖繩居民在1919年以前沒有公平的參政政權。在法律層級將這些地區納入「日本」統治範圍中,但在法律地位、歷史情感依舊將上述地區人民排除在外。不過隨著時間的發展,領有台灣併吞朝鮮後,差別待遇範圍更加擴大,「日本」、「日本人」的範圍概念隨著變動,北海道、沖繩開始內地化,國籍上屬於「日本人」,但歷史情感概念上卻排除爲「真正的日本人」。這樣日本對殖民地關係有重新檢討的必要,故本書的主題爲圍繞近代日本對沖繩、北海道、台灣、朝鮮統治政策理論的檢討,以及界定「日本人」範圍的變動研究。

至於本書對研究對象的檢討方法,簡單而言即以「包攝」、「排除」的政治表現來界定「日本」與「殖民地」差異性,例如「包攝」的理念,爲對新納入地區實施國民教育、適用國內法、擁有國民參政權,並且對住民進行「同化」;反之,「排除」即保存舊價、殖民地自治的手段,在文化與政治方面完全認爲是殖民地。作者提出隨著帝國擴張,一些大日本帝國論者,強調必須將鄰近地區的原殖民地,成爲「我們」之中,乃是對歐美帝國主義侵略的不安,爲了對抗歐美將亞洲的殖民化,主張強化國防爲國家最優先發展課題,這樣的理念也反應在國家的統治政策論。對所有地區強調「日本人」的認同感意識,同化政策下「國語」(日語)教育即歷史觀的改造成爲主要手段。作者從當時知識份子的言論、政治家的發言、官廳的內部文書、教育工作者的意見、議會審議紀錄等,整理出所謂「政治語言」,檢驗界定「日本人」的變動。並且著重當時使用這些「政治語言」者的立場,及其背後的真正意圖。

由於本書內容頗多,連序論、結論,共25章,計627頁,規劃三年研讀完畢,除逐字翻譯外,並做附註以便進一步說明,期望三年期屆,可以有譯本問世。第一年規劃研讀十次,第4、5章和臺灣相關,且每一章多達約40頁(其餘每章約20頁左右),故此二章規劃各分

二次讀畢。首次從序章及第一章〈琉球处分〉開始,而後歷次進度依次爲:第2章〈沖繩教育と「日本人」化一「日本人」への編入〉、第3章〈「帝国の北門」の人びと一アイヌ教育と北海道旧土人保護法〉、第4章〈台湾領有—同化教育をめぐる葛藤〉、第5章〈総督府王国の誕生—台湾「六三法問題」と旧慣調査〉、第6章〈韓国人たりし日本人—日韓併合と「新日本人」の戶籍〉、第7章〈韓国人たりし日本人—日韓併合と「新日本人」の戶籍〉、第8章〈「民権」と「一視同仁」—植民者と通婚問題〉等。每次讀書會針對一個章節(大章節則分兩次)翻譯研讀外,並提出問題與討論,每次會後將研讀之內容上網。

參考文獻

吳文星

《日據時期台灣社會領導階層之研究》,台北:正中,1992年。

林茂生著・林詠梅譯

《日本統治下台灣的學校教育》,台北市:新自然主義,2000年。

持地六三郎

《台灣殖民政策》,東京:富山房,1912年東京2版,1998年台北1刷。

東鄉 實、佐藤四郎

《台灣植民發達史》,東京:晃文館,1916年一刷。台北:南天,1996二刷。

後藤新平

《日本殖民政策一斑》,東京:拓殖新報社,1921年。

《史料集公と私の構造-日本における公共をえるために-第4卷後 藤新平と 帝国と自治 国家衛生原理(1889)/東京市政論(1923)/日本膨脹論/政治の倫理化 (1926)》,東京:ゆまに書房,2003年。

吉野秀公

《台灣教育史》,1927年10月初版,台北:南天書局,1997年2刷。

矢內原忠雄

《日本帝国下の台湾》,東京:岩波書局,1929年。

小森德治

《明石元二郎》(上、下卷),東京:原書房,1980年二刷。

井出季和太

《台湾治績志》,台北:日日新報社 1937 年初版,南天書局 1997 年二刷。

佐藤源治

《台湾教育の進展》,台北:台湾出版文化株式会社,1943年發行,1999年刊本影印。 原敬全集刊行會編

《原敬全集》上卷,東京:原書房,復刻版 1969年。

長濱 功編

《史料 国家と教育-近現代日本教育政策史》,東京:明石,1994年初版。

陳培豐

《「同化」の同床異夢》,東京:三元社,2001 年初版。

駒込 武

《植民地帝国日本の文化統合》,東京:岩波書店,2001年第六刷。

Hobsbawm, E. J. et al.

The Invention of Tradition, London: Cambridge University Press, 1983.

Agnew, John

Making Political Geography, New York: Oxford University, 2002.

Cox, Kevin R.

Political Geography: Territory, State, and Society, Oxford: Blackwell, 2002.

附錄:

章 別	章 名	副標題
序章		日本人の境界変動 日本と植
		民地、そして欧米 包摄と排除
		政治の言葉と表現されえな
		いもの
I		
第 1 章	琉球处分―日本人への編入	国内の人類への統合と排除
		外国人顧問の提言
		日本人としての琉球人 歴史
		をめぐる爭い
第 2 章	沖繩教育と日本人化—同	旧慣維持と忠誠心育成 文明
	化教育の論理	化と日本化 歴史観の改造
第 3 章	帝国の北門の人びと一ア	国境紛爭から日本人へ 〈日本
	イヌ教育と北海道旧土人保護	人の住む土地〉 宣教師の脅威
	法	漸化という論理 北海道旧
		土人保護法の成立
第 4 章	台湾領有―同化教育をめぐ	台湾統治の混迷 外国人顧問
	る葛藤	の同化反対論 植民地か非植
		民地か 国防重視論と対欧米
		意識 日本人化教育の開始
		卷き返す非同化論 漸進とい
		う折衷型態
第 5 章	総督府王国の誕生―台湾	〈事実上の立法權〉 〈台湾自
	「六三法問題」と旧冠調査	治王国〉構想 折衷としての法
		律でない法律 議会側の反発
		日本人の意味 後藤新平の
		台湾王国化 根拠不明の独裁
		支配
第 6 章	韓国人たりし日本人―日	踏襲された折衷型態 漸進主
	韓併合と「新日本人」の戶籍	義の教育 国籍にける排除と
		包摄 同化言説の完成
П	T	T
第 7 章	韓国人たりし日本人一日	フランス同化主義と啓蒙思想
	韓併合と「新日本人」の戶籍	ル・ボンと同化主義批判の抬
		頭 生物学の原則 自治と離
		隔 自主のジレンマ 二つの

		差別の間
第 8 章	「民権」と「一視同仁」	一視同仁の高唱 植民者民権
	―-植民者と通婚問題	の出現 通婚と日本人
第 9 章	柳は翠、花は紅―日系移民	錯綜する論壇の統治批判 デ
	問題と朝鮮統治論	モクラットの文明的同化主義
		大アジア主義者の文化多元
		主義 自由主義者の分離主義
		民族問題の隘路
第 10 章	内地延長主義―原敬と台湾	文明化としての日本人 日本
		編入のモデル 総督府の抵抗
		と漸進 頓挫した統治改革
第 11 章	統治改革の挫折―朝鮮參政	総督府による統治改革 自治
	権問題	か參政権か 〈総督府の自治〉
		の浮上
Ш		
第 12 章	沖繩ナショナリズムの創	沖縄側にとっての同化 二重
	造—伊波普猷と沖繩学	のマイノリティ 防壁として
		の同祖論 沖縄ナショナリズ
		ムと同祖 排除と同化の連鎖
		啓蒙知識人として 挫折し
		た沖繩ナショナリズム
第 13 章	異身同体の夢―台湾自治議	権利獲得としての同化 多様
	会設置請願運動	性への願望 植民政策学の讀
		み換え キリスト教徒とアジ
		ア主義者 多元的な日本、多元
		的な台湾 憲法違反の限界
		引き裂かれた請願運動
第 14 章	朝鮮生れの日本人―唯一	日本人としての権利 内地在
	の朝鮮人衆議院議員・朴春琴	住朝鮮人の參政権 我等の国
		家への屈折 一視同仁の壁
		虚像の日本人
第 15 章	オリエンタリズムの屈折	オリエンタリズムとしての民
	―柳宗悅と沖繩言語論爭	芸 沖縄の猛反発 西洋人と
		ての方言擁護 日本人の強調
		沖繩同化の最終段階
第 16 章	皇民化と日本人―総力戦体	朝鮮の否定 民族概念の相対
	制と民族	化 平等と近代化の期待
第 17 章	最後の改革―敗戦直前の參	境界を搖るがす三要因 移籍

	政権付与	問題の浮上 越えられなかっ
		た臨界 日本人という牢獄
IV		
第 18 章	境界上の島"――外国になっ	 少数民族としての沖繩人 琉
>14	た沖繩	球総督府の誕生 アメリカ人
	, 311, 12	からの排除 日本人であって
		日本人でない存在
第 19 章	独立論から復歸論へ―敗	沖縄独立論とアメリカ観ー保
>14 -> —	戦直後の沖繩歸属論争	守系運動としての復歸 歸属
		論議の急浮上 搖らぎのなか
		の歸属論
第 20 章	祖国日本の意味――九五。	人権の代名詞としての日本人
<i>y</i> , 2	年代の復歸運動	親米反共を掲げた復歸運動
	11(4)及即定到	日本ナショナリズムの言葉
 第 21 章	革新ナショナリズムの思	アジアの植民地としての日本
カ 21 立	想一戦後知識人の日本人像と	健全なナショナリズムの臨
	沖縄	界単一民族史観の台頭植
	11779世	民地支配から民族統一へ民
		族統一としての琉球処分非
		難用語となった琉球独立論
第 22 章	 一九六○年の方言札—戦後	
第 22 早	沖縄教育と復歸運動	
		札の復活 日の丸君が代の奨 励 憧れと拒絕の同居 祖国
第 22 	万 <u>海</u> 野 土 1.一左海野1.	は日本か政治変動と轉換と
第 23 章		琉球独立論の系譜復歸の現
	反復歸論	実化 仮面への嫌惡 独立論
0+ =Λ		との距離 否の思想
結論		後発帝国主義としての特徴
		国民国家におる包摂の定力
		ショナリズム 脱亞と興亞
		分類外の曖昧さ 被支配者の
		反應 有色の帝国